

2019年12月1日

キミエ後見人 安部 高樹 様
辻 俊雄・恭子 様
岩永 隆之 弁護士 殿
西山 円・敬子 様

西山紀男の妻 美年子と申します。

この度は、キミエ母の後見人となっていていただきありがとうございます。
精神病と言う特殊な事情を抱えた家族と家族関係で（先だって夫がメールでお知らせしました）安部様にはご心労をおかけいたしていることと思います。
私も夫と安部様のメールのやりとりは、一緒に見せていただき一緒に対応させていただいています。

私の理想論かも知れませんが、この兄妹のいさかい？と申しますか、これをこのまま墓まで持って行きたくない。

心安らかに死んで逝きたい、と言う思いです。

夫は80歳、私は77歳、を迎えます。年をとってからこういう辛い思いをするとは思っていませんでした。

事実をさらけ出して申し上げることにしました。

私の実家（横山）では、どんなお家でも相続争いになっていることが多い、と言うことで、父が元気なうちに遺言（公正証書）を残してありました。

西山は、キミエ母が世代交代をしないまま、認知症のため平成17年（2005年）老人ホームに入居しました。

夫は、平成16年8月に大きな交通事故に遭い、今治から愛媛大学付属病院に運ばれました。

脊髄の専門家で権威ある川谷先生に出会い、手術を2回受けました。

第5・第6頸椎骨折、脱臼、脊髄損傷の診断でした。

手術後に先生は、「普通だったら99.9%の人は即死している。この手術を受けた人で歩けるようになった人はいません。寝たきり、良くて車椅子でしょう。」と宣言されました。

私は、家には帰れない人、障害者施設を探さなければ、と覚悟しました。愛大にはそういう相談窓口がありました。

愛大で3ヶ月間。その後、リハビリ専門病院に6ヶ月間入院してリハビリを続

けました。

奇跡的にようやく歩けるようになったので、退院して自宅から道後温泉病院へ通院によるリハビリの毎日でした。

事故から今年で15年、今も週1回のリハビリ通院を続けています。

即死しなかったこと、川谷先生に出会ったこと、奇跡的に歩けるようになったこと、これは人知では測り知れない大きなものに守られていたのでしょう。

夫は、先祖様（庄三 祖父）が守ってくださった、と毎朝、庄三さんの遺影に手を合わせています。

手術後、モルヒネで痛みを取っていました。

脊損の痛みは特別のものだそうです。「痛みは人格を変える。」、そばにいる私も辛い日々を送りました。

今もお付き合いさせていただいている川谷先生が、「西山さんは本当にラッキーだった。」と仰っています。

私の友人たちは、「役割があるから生かされたのよ。」と仰っています。

事故から13年経ち、背中の痛みもようやく平成29年夏に取れました。

心身とも落ち着いたので、西山の相続のための準備として、話し合いの機会を辻さん夫婦に申し出ました。

キミエ母が世代交代をしないままに老人ホームに入居してしまいました。

目的は財産目録をつくることでした。

11月30日と12月1日をスケジュールしました。

恭子さんの事情で、11月30日午後1時20分からの開始になりました。

席について直ぐ、横浜から送られてきた写真（息子家族がお墓参り）を見せました。（お墓は2014年7月、諫早から横浜に改葬しました。）

写真をお見せしてから、私が「おかげさまで子供たちもお墓参りして、元気で平和に暮らしている。孫の知くん（小学2年）が「お母さんは留太郎おじいさまの命日の21日には毎月お墓参りに行くようにしている。」と仰っています」、と知くんの言葉をそのまま伝えました。

直ぐに、斜め前に座っていた辻俊雄さんが私に向かって、「お姉さんの心には魔物が棲んでいますよ。」「孫を追い込んでますよ。」と人を裁くような声色と形相で大声を出しました。

私は瞬間、何を言っているのか分かりませんでした。
夫が直ぐ、「おい！ 待て！」と制止しました。
恭子さんが直ぐに、「この人は、良く、勘違いするから、忘れてください。」と
言うていただきました。
夫はその場を離れて、トイレに行きました。これから話し合いを始める、と言
うときに。
夫がトイレに行っている間に、私は俊雄さんに「長いこと教職に就いてらした
のに、子供たち（生徒）にもこのような物言いをされていたのですか？」と尋
ねました。
俊雄さんは「そんなことはしてません。」と、一言も詫びることなく、シラーっ
としてらっしゃいました。

夫がトイレから戻り、話し合いのために準備して来た印刷物を手渡して、項目
の順に説明を始めました。
一区切り説明した時、俊雄さんが、「留太郎 父は、財産を全部、恭子にやる、
と言っていた。」
また、恭子さんは、「母は、私の好きなようにして良い、と言っていた。」と。

この時点で、お二人は、相続についての基本知識が全く無い。私は、中学校の
社会の授業でも相続の基本知識は習っていました。
これでは、今日は話し合いにならないだろうな、と直感しました。
事実、そのとおりに話し合いはできませんでした。

俊雄さんは、紘二さんに対する偏見と差別発言、
「変な人」、「見た目だけで普通じゃない」、
「紘二さんと一緒の時、恭子の友人に出会って気まずい思いをした」。
母と同居して離島に行けなかったから校長になれなかったこと、等を一人でし
ゃべり続けました。
夫は、黙って、何も言いません。

私（美年子）は相続権がありません。
息子（円）と孫（知志くん）に200年前から続いている西山家を継ぐために、
私のはっきりと、「諫早の土地は先祖代々、西山家が継いで来たものなので、紀
男が継ぎ、次へ伝えたい。」と発言しました。
恭子さんは、「二人が死んだら、やってもいい。」「しかし、それは売らないで
欲しい。」と答えました。

話し合いの内容に従って夫の説明が済んだ時点で、直ぐに、恭子さんは「体調が悪くなった。」と退席しました。

私が「固定資産税の納付書を見せてください。」と開示を求めたところ、俊雄さんは恭子さんの所へ行き、戻って来て、諫早の土地（和子さんと紘二さんに相続させた）の固定資産税の納付書だけ持ってきました。

泉町の納付書は「恭子が見せられない、と言った。」と持って来ませんでした。（見せられない理由は、岩永弁護士からのメールで直ぐに分りました。建物の名義が辻俊雄になっていました。）

その後、相続人でも無い俊雄さんが、意気揚々と「家を出て行った人が、今更虫が良すぎる。」、「虫が良い」と言うのは、とメモの紙を読み上げ始めました。そのメモは、国語辞典で引いたのでしょう。夫は、反論もしないで黙っていました。

「虫が良い」と言われても仕方がありません。井川の叔父（母の弟で、東京・練馬区に在住）からも、「美年子、早く長崎に帰れ。西山さんが待ってる。」と忠告されました。夫の首は、前後を開き、左右の腰から取った骨をチタンのボルトとナットで頸椎に止めてあります。手術後、「首を再び開くことは無い、と思いますが、・・・」と医師から聞いていました。手術した川谷医師を離れて、長崎に帰ることは私にはできませんでした。

暗くなり、6時を過ぎたので、タクシーを呼んでもらって帰ることになりました。

リビングから廊下に出たら、俊雄さんが私の背中に張り付くように接近して、左肩に向かって大きな声で、「子供は親が見るもんですよ！」、「子供は親が見るもんですよ！」と2回繰り返しました。何を意味するのか、今でも分かりません。

その後、「恭子は一生懸命やっているのに！」と何度も繰り返し、階段下に来た時、更に「恭子は膝が痛いのに、」と。私が靴を履いている時にも、再び「恭子は一生懸命やっている！」と言い、ドアノブを開けながら、「恭子は一生懸命やっている！」を連呼しました。「恭子さんが一生懸命やっている」のは事実だし、私どもも分っています。

「明日、もう一度、1時に来ます。」と伝えたら、俊雄さんは、「対応できません。来ないでください。」と言われました。「お二人は話し合いができる人種ではない。」、と夫が判断し、翌、12月1日、岩永弁護士のもとに駆け込みました。

今年3月の紘二さん（夫の弟）の葬儀の時にもいろいろありましたが、夫が「これは西山家の葬儀だ。」と言って、取りまとめました。（喪主は西山キミエ母）とても良いお葬式をしていただいたので、平安社の担当者の方には、後でお礼状と菓子折りを届けました。

以上のようなことを気ままに書いた、と思われるかも知れませんが、これは事実です。

その後、私の心身に変調が出始めました。俊雄さんの声色と形相が突然、脳裏に浮かんで、眠れない状態が続き、体重が減ったりしました。忘れよう、忘れよう、とプールに行ったり、公園を歩いたり、しました。

2019年9月29日（日）夕刻、俊雄さんが大声を出した魔物の件、その時の俊雄さんの声と情景が、突然、思い出され、唇が震え始め、歯がガタガタ鳴り、舌を噛みそうになりました。

そのうちに、体中が震え、止めようとしても止まりません。救急車を呼ぼうとしましたが、日曜の夕方だったので、当番医には対応できる所がありませんでした。そこで、呼吸法（夫の事故後 14Kg 痩せた私を見て、友人が誘ってくれた呼吸法の教室）を思い出し、深呼吸しましたが止まりません。ぬるいお風呂に入ってみよう、とお風呂を用意して、ぬるめの湯にゆったり浸かり、リラックスし、身体を温めました。風呂から上ったら、震えが止まっていました。

本当に怖かったです。こんなに怖い思いをしたのは生まれて初めてです。インターネットで調べたら、「フラッシュバックの症状」と全く同じでした。突然と出て、いつまた出るか分からない、と言うことで、今も怖い思いをして

います。

今度でたら、専門病院に行こうと思っていました。

2019年11月20日 病院へ行きました。2019年9月29日、私の身に起ったフラッシュバックの件で、インターネットの情報だけを抱えたまま不安でいるのも辛くなりました。精神科の専門病院を訪ねました。

先生は、「インターネットの情報は捉え方が問題です。この症状は誰にでも起きます。病気ではありません。震えるのは皆同じです。弁護士が入って相続問題が続いているのであれば、また起きるでしょう。パニックになった時、飲むとん服を出します。救急車は呼ばなくて良いです。」と言われました。病院へ行って良かったです。

今76歳、これまで障害児2人を抱え、夫の重大事故、リハビリ、事故後の処理など（息子を巻き込みたく無かったので）一人で処理してきました。私のいたらないところを許していただき、多くの人達から助けられて、今の私があります。

人はそれぞれ、それぞれの想いがあり違って良いと思います。西山の母のことも任せっぱなしでしたし、美年子に対する想いがバッシング発言になったのでしょうか。

私は、夫の事故以来、全てを切り捨て、夫の回復だけを優先させてきました。周りの事は、何も見えて無かった、と思います。東京海上からは裁判を勧められましたが、加害者が暴力団のトラックだったので、加害者側の言うなりにしました。東京海上からは、加害者が暴力団と言うことを他言しないように、と言われていましたので、子供にも伝えてません。私の心身は限界でしたので、裁判に提訴するのを切り捨てました。

恭子さん、ほんとうに良く親孝行なさいましたね。親を見ることの大変さや不満や愚痴など、何も私共にはおっしゃらず、立派だと思っていました。キミエ母は、孫の成長を傍で楽しまれ、良い家族に恵まれ、102歳と言う長寿を全うされているのでしょうか。キミエ母の愛情をたっぷり受けて育った竜也君と朱美ちゃんは、西山家が抱えている発病も無く、立派に成人なさって幸いでした。

私の身近なところでは、

(1) 今現在、親を見ている人は、

辻恭子さん。母親は平成17年、88歳で老人ホームに入居。

山口衣久さん（横浜在住時の友人）。自宅で99歳の自身の母親を見ています。横浜市からの種々の支援を受けています。10月に電話したら、時々、心が折れそうになる、自分の自由時間が無いのが一番辛い、と言っていました。

(2) 過去に親を看取った人は、

私の実家の横山正寿の妻、典子さん。私の両親を終末期医療に入る直前まで、自宅で最後まで良く見ました。母は延命治療で胃ろうをしましたが、その間も毎日、病院に通いました。相続権の無い嫁の典子さんには、父の遺言により実娘の美年子および正子より多くの不動産が贈与されました。

私の妹で、長与の田中家に嫁いだ正子。田中のご両親を終末期医療に入る前まで自宅で見ました。「刻み食」から「とろみ食」に至るまで食事の用意もしました。一度も不平不満を聞きませんでした。

有馬のり子さん（敬子さん（息子の嫁）の母親、横浜在住）。高齢になった義理の母 有馬千代子さんを鹿児島から自家用車で運び、自宅で最後まで面倒見られました。

(3) 現在、私共が住んでいるマンションは駅近で便利なところなので、高齢者の一人暮らしの方が20人ほどいらっしゃいます。

子供のいない方や子供が遠方にいる人は、85歳～90歳になると、老人ホームに入居されています。

いずれの方々も恵まれた幸せな方です。

1. 家族に病者が居ない。
2. 配偶者が心優しく協力してる。
3. いずれも二世帯住宅。
4. いずれの方も経済的に恵まれている。

私、美年子は、横山の両親の世話、見舞いなど、何もしていません。父から一度だけ、面と向かって責められたことがあります。

父が道ノ尾の光晴会病院に入院していた（人口透析）時のことです。
妹 正子は、大家族（7人）を抱えているにも拘わらず、毎日、長与から汽車に乗って入れ歯の掃除に来てくれた。それなのにお前は一度も見舞いにも来なかった。
後日、正子は私に、「義姉の典子さんには父の入れ歯の掃除はさせられない。」と告げました。
両親の葬式にお客さんとして参列しただけで、その後の法事にも一度も行ったことがありません。
横尾の横山一族では、美年子は親不孝者の代名詞でした。
でも、両親はきっと許してくれていたことと思います。

長崎西高の在京同窓会の友人たちも親の介護のため、一週間とか、一ヶ月とか、帰崎しています。

皆さんは親孝行なのに、私一人だけ特別です。
長女、昌子、の15歳時、精神病発病のためです。現在も妄想、幻聴、幻覚、などの症状で人格が破壊されてしまいました。西山に生まれてきたばかりに、理不尽です。
入院・監禁は可哀そうなので、社会の中で生かしてやりたく、松山市の支援を受けて、2015年秋より一人暮らしをさせています。
今年の秋、生活保護の申請をし、受理されました。家賃、水道、電気代を払い、残りのお金でギリギリの暮らしです。

西山キミエ母から伝え聞いたことなどを以下に書きます。

キミエの葬儀代について：

留太郎 父が亡くなった数年後、昭和50年代だったと思います。
キミエ母が、「葬式代は準備している。互助会（名前は忘れました）に積み立てをしている。」そして、押し入れの前に私を連れて行って、「緊急の時のお金は、ここに入れている」と布団の間に挟んだ袋を見せてくださいました。

2019年7月1日、改正相続法が施行されました。
生前の入院費や葬儀代などの仮払い制度ができました。（日経新聞 6月30日で読みました。）葬式準備金を恭子さんのように何百万も手元に置いておく必要

は無くなりました。

同居のいきさつ：

同居に関しては、夫（長男の紀男）は、全く蚊帳の外に置かれていました。同居の事を知ったのは、家を壊して、二世帯住宅を作るため、母が葉山のアパートに仮住まいをした時でした。

長男を無視して、何と言う母だろうか？

夫は、実家に置いていた学生時代のアルバムと大事な書籍、3、40冊余りを全て捨てられていました。

中でも Rabindranath Tagore（ノーベル平和賞を受賞）の著書数冊の廃棄に大きな衝撃を受けた、とのことでした。

また、夫は、辻家の世帯主の俊雄さんから、恭子さんからも、同居することについて全く通知が無く、電話もなかった、とのことでした。

夫は、現役を引退したら、長崎に帰る積りにしていました。

美年子は、「何故、長男は無視されたのか？」 西山家の不思議なこと、と思いました。

年月日は定かではありませんが、三和町の「みのり園」に入居している私の長子（英男）に会いに、私一人で長崎に行った時のことです。

諫早のお墓は遠いので、西山の仏壇にお参りしよう、と泉町の家を訪ねました。お母さんは葉山町の仮住まいから泉町の新居に引っ越して来て、一人で住んでいらっしやいました。

仏間に座ると、お母さんから次のような話をされました。

「恭子は、なんばしとっとやろか？ 未だ引っ越して来ない。あの娘は何でも、のろか。」

お母さんは続けて、「俊雄さんが竜也君を長崎の高校に入れたいので、同居した。」その時初めて、同居の理由を聞きました。

「喜々津の土地などを売って、二世帯住宅の費用3500万円を渡しました。あと足りない分は、俊雄さんがローンを組んだ。」とおっしゃいました。

「土地はキミエ名義、建物は辻俊雄と共同名義にした。」と話されました。その時は、家を解体した時の引っ越し、また家が出来上がってからの引っ越し。2回の引っ越しを一人で取り仕切られたこと、その体力と気力、それに3500万円の大金に圧倒され、今でも鮮明に記憶に残っています。

後日、何年も経過してから、俊雄さんから次のようなことを聞きました。

「竜也を長崎の高校に入れたいから、諫早から長崎に転居したい、とお母さんに話したら、お母さんも一人暮らしの不安や寂しさがあるので、一緒に住もう、とすることで合意した。」

俊雄さんがおっしゃるには、「その頃は、お母さんは精神的に大分おかしかった。」

「トイレで倒れたから同居した。」という話は一切聞いていません。

倒れた時点で、何故、紀男に電話しなかったのか？

平成2年の初夏、紀男一人で行ったときは、約束して行ったのに、夜まで留守だった。

母は、とても元気であちこち廻っていた。

同居後は、辻家4人分の食事づくり、弁当作り、洗濯など、朝の家事のほとんどは母が取り仕切っていた。

このことは、朱美ちゃん（恭子の娘）が良く知っているはずです。

母の話によると、「恭子は午前中、寝ている。」、といつも聞いていました。

孫と同居したことで、精神的にも肉体的にもとてもお元気になりました。

美年子に話して下さったことは、「デパートの中を歩いて、服を見て回るのが好き、今どんな服が流行っているのかを見るのが好き、老人ホームに入居前までは、良くデパート巡りをなさったようでした。おしゃれで、いつも綺麗にしていってました。」

東京のホテルで挙げた息子の結婚式にもいらして下さって、お祝いも沢山にちょうだいいたしました。その時、キミエ母82歳でした。

結婚式の後、私宅にも泊まり、夫が横浜見物にも連れて行きました。

旅と結婚式の疲れもなく、体調はとても良く、びっくりするほど元気でした。

その年の冬の初め、松山・道後の私宅にも10日ほど、滞在されました。

夫が市内観光案内をしましたが、何処へ行くのも健脚でした。

その後も手術や入院などは無く、95歳でペースメーカーを入れられました。

100寿の祝い膳では、ステーキを除いて、完食なさったそうです。

102歳になった今年の春、紘二さんのお葬式が済んだ翌日（3月27日）花

みずきにお母さんを訪ねました。

ベッドから上半身を起こして、座られた瞬間、お母さんのお顔はピンク色、

「お母さん、きれい！ お化粧してらっしゃるの？」と聞きました。

嬉しそうに、にこっと笑ってくださいました。

バラの花束をお持ちしたら、「きれか！　きれか！」と喜びの声をあげられました。

「紀男がきたのよ、紀男が分りますか？　お母さんの子供よ！」と私が尋ねました。

そしたら、「誰か分らん」とおっしゃいました。

特別な病気もなく、耳もよく聞こえられて、お幸せそうな表情に感銘して帰ってきました。

3人の病者（キミエの夫（留太郎）、長女　和子、次男　紘二）を抱えて、どのように受け止めて生きてこられたのか？　「老人ホーム入居前にお尋ねしておけばよかった。先輩として学ばせていただくことが多かったのではないか。」と悔しい思いをしました。

健康に恵まれ、俊雄さん、恭子さんと言う良い家族に恵まれ、経済的にも恵まれ、102歳という長寿を全うしていらっしゃる。

これらは夫が大きな交通事故から奇跡的に生かされたのと同じく、キミエ母もご先祖様からの大きなご加護を受けていらっしゃると思いました。

トイレで倒れた、との事故も、母からは全く聞いていませんし、そういった症状や後遺症を感じたことは、一度もありません。

老人ホーム入所のいきさつ：

以下、夫（紀男）が恭子から聞いたことを記載します。（美年子は聞いていません）

身体は元気だったが、痴呆症の症状が進行していた。

お金のトラブル。

最初の老人介護施設に入居する前の年、辻恭子から電話があり、「このところ母は痴呆症の症状がひどくなっている。」、母から、「お金が無くなっている、恭子が盗っただろう？」と責められることが多くなった。

そこで、市役所の介護認定の担当者に訪問してもらったところ、母は「私は健康で、頭はしっかりしている。ボケてなどしてない。」と言って、担当者を追い返した、とのこと。

翌年の秋、三和町の「第二みのり園」に入所している長子（英男）に会った帰り、泉町の母の居所に立ち寄ったところ、母が居ない。

恭子に尋ねたところ、次の説明があった。

「お金が無くなってる。 恭子、盗っただろう？ 出さんね。」との責めが頻繁に起る。

それも、昼間だけじゃ無く、夜遅く2階の寝室まで階段を上って来て、「お金が無くなってる。 恭子、盗っただろう？」と責め立てられ、睡眠どころではなく、ノイローゼ気味になった。

とても耐えられなくなったので、本原の老人介護施設に入れた、とのこと。

この時点で、母はお金の管理が出来なくなっていた。と言うことが証明されま

す。それにも拘らず、入所後の時点で、「母の了解を得ていた。」との理由による支出は横領に該当するでしょう。 **紀男記、**

墓を諫早から横浜へ改葬の費用：

「西山家墓地（母が立ち退きを要請されて30年余り放置していた）を横浜・長延寺墓地へ改葬するため立替え払いしている費用を母の財産の中から支払ってもらうこと。」について述べます。

経緯は、

- (1) 西山利三が 昭和2年10月 山口傳一（山口家へ養子に行った西山利三の次男）に地所を譲渡した。
昭和4年12月 利三が既に譲渡した地所の一部に西山家の墓を建立した。墓地を含む地所を相続した山口節夫氏（山口傳一氏の孫、東京都在住）は、平成の初めから再三に渡り、西山キミエに墓の移転を要請していた。
- (2) 平成25年7月 山口節夫氏は西山キミエ宛に墓の移転を文書で要請した。当文書は辻恭子から紀男へ転送され、移転先を検討することとなった。
- (3) 長崎市内の墓地を探したが、値段が高く、紀男の資金では出せる価格では無かった。たまたま「西勝寺」の永代供養墓地を見つけた。

住職と会い、現地を訪ねると、立山の頂上から急傾斜の坂道を下った所に共同墓地が作られていた。

そこへの往復は、高齢者や女子供には危険を伴うと実感しました。

永代供養のことを息子に伝えました。

息子の妻（敬子さん）は、「永代供養は無縁墓になる。」と言うことを心配して、横浜に墓地を探しました。

幸い、同じ居住地の緑区に浄土真宗・西本願寺派の長延寺がありました。ご住職に相談したら、「親戚のために空けておいた一区画があります。譲っても良いですよ。」とおっしゃったそうです。

きっと、西山の経歴と敬子さんのお人柄を見て、譲ってくださったのでしよう。

価格は、400万円、これは敬子さんが自分の預金から支払いました。

この400万円は、有馬康雄氏（敬子さんの実父）が嫁ぐ娘に持たせた500万円の中から、有馬氏の許可を得て出されました。

私は、「大事なお金を西山の墓のために出して、本当に使っているのか、大丈夫なの、」と電話でいろいろと話し合いをしました。

敬子さんは、「これは投資です。息子の知志のためにやります。」と決断されたようでした。

この時、息子から「西山の財産目録と通帳を開示して欲しい。」と2回、美年子に電話がありました。

この件を夫に伝えましたが、夫は恭子さんに何も言うことが出来ませんでした。

何故、言えなかったか？ この件だけでは無く、結婚以来、色んなことがあったのですが、

（1）長男（英男）がダウン症だ、と九大医学部で判定された時、

（2）長女（昌子）が分裂症、と診断された時、

（3）美年子が4回手術した時、

（4）息子（円）が2015年に椎間板ヘルニアの手術をした時、

等々もキミエ母と恭子には、夫は何も報告できませんでした。

西山家の不思議です。

何故、言えなかったか？ これは夫の成育歴が原因しているのではないかと、思っています。

夫は、1歳の時から小学3年まで、諫早の祖父母に預けられました。

祖父母は、愛情たっぷりに育ててくれた、と夫は言っています。

でも、一番大事な時期に、母の愛を知らないで育ちました。

成人するまで、母にあまえたことは一度も無い、と聞いています。

恭子さんには、私が電話で「敬子さんが墓地を買ったことを伝えました。」
 私は、有馬さんに申し訳なくて、今も胸が痛いです。
 今現在も、息子は、「相続の時でも良いから、敬子さんに返して欲しい。」と
 言っています。 墓地の代金は、キミエ母の負債です。

他に掛った墓の改葬費用は、西山紀男が立替え支出しました。465万円です。
 これもキミエ母の負債です。

改装に掛った立替え費用は、合計865万円です。

明細は下記表です、平成30年11月30日 辻恭子さんに説明済みです。

	実費	交通宿 泊	合計	単位:万 円
長崎市西勝寺の永代供養墓を調査	1	30		
横浜市緑区長延寺の墓所を取得	401			
諫早市役所へ改装手続き		15		
諫早市城見町高瀬石材工業へ解体・磨き・輸送	68	15		
横浜市緑区石涼へ墓所工事	300			
諫早市八天町正源寺へ閉眼供養お布施	10	15		
横浜市緑区長延寺へ建碑式お布施	10			
	790	75	865	万円

私、美年子は、「立ち退きを要請された時から、何故、母は放っておいたのか？」
 西山の内情を知らない私には理解できません。

立ち退きを要請された時点では、諫早に3か所の宅地があり、預金も十分にあ
 ったはずだ、と紀男は言っています。

こんなに子々孫々にまで及ぶとは、キミエさんは「西山を継いで行く」、と言う
 意識がなかったのでしょうか？

仏壇の移転について、

辻宅に置いてある西山家の仏壇は、キミエ母が女学校の時、祖父 庄三が設置
 したものです。

墓地改装とともに移転したかった西山家の仏壇は、諫早水害のとき洪水に浸か
 っています。

近いうちに、京都の西本願寺前「京仏具 小堀」の工房へ運び、お直しをしても
 らう。

(この件は、築地本願寺横、京仏具 小堀・東京支店の店長さんと敬子さんが進
 めています。)

その後、横浜の息子宅に運び、100年後の後世に伝えること。

(現在、西山家の仏壇が長崎市泉にあるのは、墓地改葬と共に横浜へ移す旨を辻恭子に伝えた時、母が逝去する迄置いておきたい、との意向を汲んで置いています。)

ついでには、私も80歳になりますし、仏壇の移転を実施したい、と思っています。

仏壇の移転にかかる費用は、キミエの資産から支出するべきと思っています。

紀男記、

辻俊雄さま宛「水問題」(含む電気代、NHK)

水争い? 「水問題」について、キミエ後見人、安部氏、の報告を読んで、一番びっくりしたのは「水」、生活の基盤である「飲料水、風呂の水」夏、冬、を快適に過ごすための「エアコン電気代」などを施設入居前からキミエの入居後もキミエの口座から引落されている。

少ない遺族年金収入で、しかも残高が少なくなった口座からの引落しです。

後見人の報告書によると、恭子さんが「母親から了解を得ていた。」ということです。認知症が進んだから入居させた、と言う時点での「了解」に疑問を感じます。

これは、「援助してもらっていた」と言うことでしょうか?

それとも、生前贈与にあたるものなのでしょうか?

私は、昌子の15歳の時の発病以来、多くの精神障害者(病者)とその家族に出会いました。

藤沢の「三好クリニックの家族会」、松山市精神病家族会の「明星会」、現在、通院している味酒心療内科の家族会、明星会の作業所3か所、グループホーム2か所、の方々です。

昌子も元気なうちは、2か所の作業所に通いました。箱折り、タオルの綻びを見つけて鉋で切る、ホテルのアメニティの袋詰め、などの単純作業をしました。老人デイケア施設の昼食後の食器洗い、にも行きました。

その時は、30分100円でした。作業所では工賃と呼ばれ、時給100円いただけたら良い方です。

グループホーム2か所の人達と出会いました。私は明星会の「こもれび」に夕食作りのボランティア（無償）に通いました（夫が交通事故に遭う前まで）。そこは、50代から60代の6人の男性の病者が共同生活しています。古い空き家（2階建ての一戸立ちの家）を借りて、襖やカーテンで仕切り、各人の空間を確保してあり、お風呂とトイレは共同です。そこから作業所に行ったり、病院のデイケアに行っています。みんな優しく、穏やかで、どこからも縛られることなく、（精神病院に入院して、監禁されるより）自由で身の丈に合った暮らしをしていました。

もう一か所のグループホーム「ひばり」は道後湯月町にあります。そこには昌子の作業所仲間が入居しています。M君は親亡き後、姉の家族と同居していましたが、ひばりに転居しました。

近所でお会いすると、「西山さんは元気か？」と声かけてくれるとても優しい子です。

グループホームの子たちは、障害年金や生活保護を受けながら、家賃、水道代、電気代、を払っています。しかし、グループホームにはエアコンはありません。生活保護は、月額11万5000円です。

俊雄さんは健常者なのに、家賃（土地代）も水道代も電気代も義母 キミエから援助を受けていらっしゃいます。

例え話をさせてください。

もしかして、長男の竜也君も妻の実家のお母さん（隣の家に居住の西宮さん）から水道代、電気代の援助を受けていらっしゃるのでしょうか？ 超一流企業で建築家として都市開発などの大きな仕事をしてご活躍のほどを伺い、私共も嬉しく将来を楽しみにしています。

立派なお仕事が出来ても、飲み水やトイレの水など、援助を受けていらっしゃるのであれば、人としては格落ちですね。

美年子は、兄弟としてではなく、一人の個人として私の想いを述べさせていただきます。

辻俊雄名義の家の世帯主として、恥ずかしくないのですか？

このことを次世代の西山円と辻竜也に語り継ぐことができますか？

恭子さまへ、

人は、食って、飲んで、たれる（排泄）のが生きる基本です。
その水を親に依存すると言うことは、私の価値観と違います。人はそれぞれ価値観が違ってよいのです。昔の人が「親しき仲にも礼儀あり」と言っています。実の親娘でも水に関しては、けじめをつけるべきではないでしょうか？
キミエ母、和子さん、紘二さん、英男も、毎月、各施設で家賃、水、電気代を支払っています。明細書をみると分ります。

「身内のもめ事は、子々孫々に災いをもたらす」と言う横山の両親の教えが、いつも頭をよぎります
水争いは日本史上、至る所で起きていますが、西山の家でこんな小競り合いがあるとは、思ってもいませんでした。

次に示す表は夫がキミエの口座から引落された金額を明示するため表とグラフにしたものです。

後見報告書のキミエ名義口座の取引記録から抽出しました。

キミエ母が施設へ入居後の電気、水道、NHK 代金です。一ヶ月分ずつ通帳コピーから拾い上げる大変な時間と労力でした。これは「横領だ、横領だ」と怒りをエネルギーに代えていました。

妹の不正支出を調べるということは、私は「夫は悲しいことをやっているな～」と思い、途中で、「止めたら」、と言ったこともありました。

コンピューターに精通した夫だからやれたことです。

施設入所後の生活インフラ費用の引落し：集計

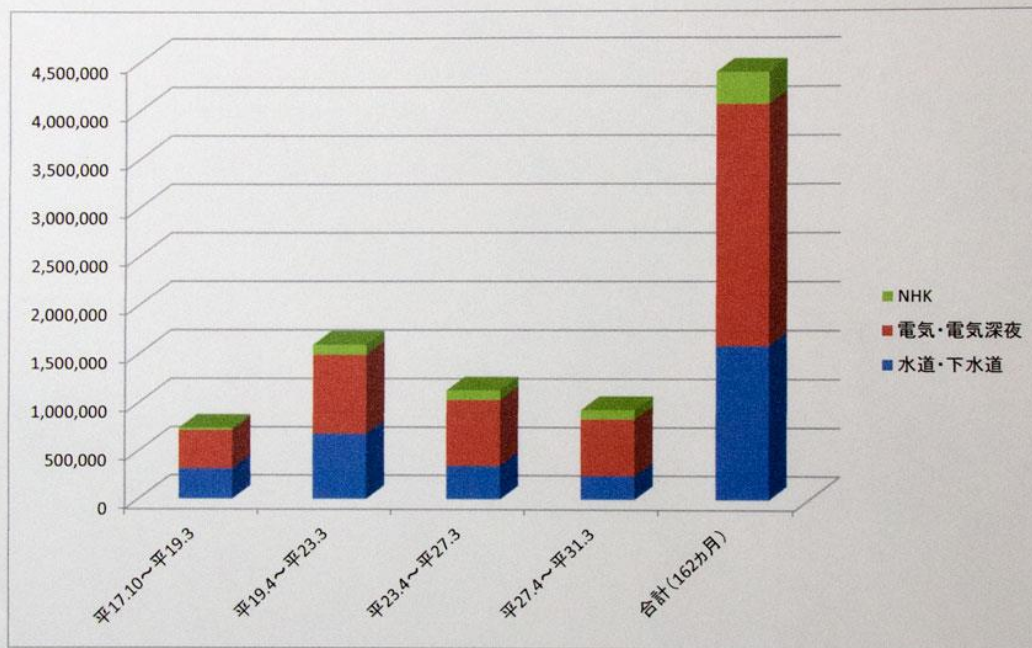
Source:

(水道・下水道、電気、NHK受信料)

1905-26-337328

(平17/10～平31/03：162ヵ月)

期間	水道・下水道	電気・電気深夜	NHK	合計	月平均
平17.10～平19.3	317,924	396,827	25,520	740,271	41,126
平19.4～平23.3	679,149	814,290	102,080	1,595,519	33,240
平23.4～平27.3	347,388	683,432	99,180	1,130,000	23,542
平27.4～平31.3	244,731	586,863	99,080	930,674	19,389
合計(162ヵ月)	1,589,192	2,481,412	325,860	4,396,464	27,139



水問題の対する私の願いは、次世代に繋ぎたくない、裁判にしたら辻家の汚点になることでしょう。

墓の問題も母 キミエが30年余りも放っておいたから、孫の代まで引き継ぎました。

横浜・長延寺・墓地代金は、キミエの孫の嫁、敬子さん、が400万円を支出しました。

夫の紀男と墓の土地所有者の山口節夫氏との間が陰悪になりました。

改葬が済んだあと、私は東京在住の山口節夫氏に手紙を書きました。

30年間放って置いたお詫びと、祖父(西山庄三)の代から西山の墓を守って

いただいたお礼です。心ばかりの品物をお届けしました。

時を同じくして、キミエ母の孫（西山円）の妻（敬子さん）も、山口節夫さん宛にお礼状を出したそうです。

敬子さんも私と同じく、このいさかいを子供につなぎたく無い、との思いから手紙を書いたとのこと、「長い間の墓のお礼、自宅の住所、電話番号、長延寺の墓のご案内、ご先祖様のお墓参りには、いつでもいらしてください。」との内容だったそうです。

その後、節夫さんとは和解していただいたようで、毎年、年賀状をいただいています。

このように、横山の父母の教えを守り、いさかいを次世代に繋がないように、水争いも平和裏に収まるように願っています。

以下別件：

2018年11月30日、辻宅での話し合いの時、

恭子さんが、キミエ母が紀男に貸した400万円を返してもらってない、と発言しました。

これは、今から36年前に紀男とキミエ母との間で解決したことです。

具体的には、

昭和47年に福岡から東京に転勤になりました。外資系の会社なので社宅がありません。練馬区・大泉学園町で賃貸のマンションに住んでいました。

東京は家賃が高いため、千葉の分譲マンションを買いました。

千葉のマンションは、高金利時代だったので毎月10万円のローンを払っていました。

その後、交通事故で、むち打ち症になり、六本木の本社まで通うのが困難になりました。

そこで、昭和58年に横浜の中古のたまプラーザ団地に引っ越すことになりました。

たまプラーザ団地の頭金として500万円をキミエ母からお借りしました（残り1200万円は住宅ローンを組みました）。

毎年、夏と冬のボーナスから少しずつ返済していました。

年月日は覚えていませんが、残高が400万円になったとき、「もう返さなくてよい。」とキミエ母から申し出がありました。

有難く、甘えさせていただき、助けていただきました。

また、昭和47年から長男の英男（重度障害者）を長崎の「みのり園」に預けました。

その時代は、障害児に対する公的援助が無く、毎月8万5000円を長崎県に収めていました。

夫は、平均的サラリーマンの給料よりは良かったのですが、社宅が無かったので毎月の住宅ローンと英男の療育費の支払いがあり、生活は楽ではありませんでした。

妹 和子さん、弟 紘二さん、のことについて、

夫と結婚してから52年になります。

結婚後からず〜っと、老人ホームに入居前までも、キミエ母は、二人の兄弟の病気の事（病名や入院中）を、私、美年子には、いっさい、話してくだされませんでした。

親戚中にも隠されていました。

病気のことを知らされていたら、どんなに良かったか、と残念に思うことが多いです。

長女、昌子、中3のとき、不登校になりました。

NHKの番組に出ていらした新宿区にある「佼成病院」の心理カウンセラー、内田先生、を訪ねました。2〜3回、通院しましたが、「もう、薬を飲んだ方が良いでしょう。」と、藤沢の「三好クリニック」を紹介してくださいました。

三好先生のところで、最初に、昌子一人で診察室に入りました。

その時点で、先生は、昌子に直接、「あなたは分裂症です。死ぬまで薬を飲まないといけません。」薬を飲むことが、どんなに大事なことを種々の統計グラフなどを見せて、説明されたそうです。

その後、私が診察室に入りました。

先生は、先ず「身内に神経を高ぶらせる人がいますか？」とお尋ねになり、私

は、「留太郎 父がよく大きな声をだして、怒っているのを何度か見ました。」と答えました。

先生は、「分裂症です、遺伝病です。入院はさせないので、明日から毎日通院しなさい。」と言われました。

たまプラーザから藤沢まで、1ヶ月ほど毎日、通いました。急性期だったのでしょう。

その後、週1回になり、松山に引っ越すまで、12年間通院しました。

三好先生の初診の後、当クリニックの広瀬カウンセラー（心理カウンセラーとソーシャルワーカーの資格有り）に会いました。

「来るのが遅かった。そう少し早く来てればよかった。」と言われました。

後から思ったことですが、西山の病気を母が教えてくれていたら、もっと気をつけて子供を見ていたのに、と残念です。

広瀬カウンセラーは、「分裂症と言う言葉は、人をどん底に落とす言葉です。この言葉は忘れなさい。」とおっしゃいました。

その後、随分年月が経って、「統合失調症」と改名されました。

三好先生と広瀬カウンセラーとの出会いは、宝くじに当たったようでした。

中学校が推薦してくれたので、「洗足学園大学・付属高校」に入学できました。入試当日は、夫が付き添い、薬を飲んで受験しました。

高校在学中の3年間は、広瀬氏がケースワーカーとして高校（学級担任、保健室の先生）との間に入って支援活動をしてくださいました。

通学は遠かったけれども、本人の努力もあって卒業できました。

その後、現在に至るまでは、昌子本人の苦労は、並大抵のものではありません。

キミエ母への恨み、つらみになるかも知れませんが、私には何も教えていただけず、いつも西山家に疎外感を感じていました。

結婚直後、小倉の徳力団地にいるとき、紘二さんが何度か私宅に来ました。

いつも私宅から創価学会の集会に行っていました。

紘二さんが帰った後、何度も創価学会の人が玄関に来ました。

「紘二さんは、良く勉強されていて、学会の中では、地位が上だった」、と聞きました。

帰る時には、私にお金を貸して、と言われ、大金では無いので「働いて、一月1000円でも良いから、返してね。」と言って貸していました。

着ている衣服は、10日以上、洗濯していないようで、真っ黒でした。
帰るときは、夫の下着をいつも沢山持たせました。
私は、創価学会のことは分らないので、嫌な思いをしました。
お母さんが病気のことを教えてくださってれば、このような嫌な思いは無かったでしょう。
紘二さんにとっては、宗教が唯一の救いだったので、今思うと残念です。

夫が福岡に転勤になり、原団地に住んでいたとき、「アイ・ビー・エムの中途採用を受けたい。」と紘二さんが私宅へいらっしゃいました。
私は、履歴書を買に行かせ、履歴書を書かせ、試験当日の朝、身支度を整えさせ、送り出しました。
夫は、忙しい最中で、何も関わっていません。
お母さんが、病気のことを教えて下さっていたら、こんなことはしていませんでした。
残念な思いです。

和子さんは、私どもが結婚した年、昭和42年に、小倉の徳力団地にいた時、一人で遊びに見えました。
長男（英男）を妊娠していた時に「マタニティー用ジャンパースカート」を縫って、送ってくださいました。
その後、母の住んでいる家には居なくて、お会いすることは一度もありませんでした。
和子さんについても、お母さんから私に話されたことは、一度もありません。

2017年1月、息子（円）の妻（敬子さん）が「墓を引き継いでいく知志に、和子さん、紘二さんに会わせておきたい。」との強い意志です。
紅葉病院の紘二さん、道ノ尾病院の和子さんに会うため、私と夫、息子家族3人の5人で、初めて面会に行きました。
ようやく西山の重いドアが開かれたようで、私はほっとしました。

上記のしめくくりとして、
練馬の叔父がいつも私に「隠すと言う行為は、人として一番悪いことだ。」と言っていたことを思い出しました。
父母や叔父叔母、の先人たちは、私にいろんなことを遺してくれていた、と感

謝します。

その他、諸々。

1. 昭和42年、私と紀男が婚約した後、横山の両親と私が、西山のお家にお招きを受けました。

お座敷で、お御馳走をいただいている時、突然に留太郎父が「和子と紘二に3000万円貯金している。」とおっしゃいました。

私の両親は、和子さん、紘二さんがどこで、何をしている人か知らなかったのと、3000万円と言う大金にびっくりしたそうです。

2. 昭和50年代のことです。

昭和47年に長男（英男）が長崎の社会福祉法人「みのり園」に入所しました。それから5～6年経った時、「みのり園」から次の指導を受けました。

「英男の障害年金が振込まれる銀行口座に多額の残高を残さないようにした方が良い。監査の時に引っかかることがあります。」

それで、美年子名義の口座をつくり、貯まる度にそこへ移管しています。

上記のことを長崎に帰った折、キミエ母に伝えました。

「和子、紘二の障害年金口座のお金も、それぞれにキミエ名義の口座を作って移管しよう。」とおっしゃいました。

その折に、「和子、紘二には、別々にまとまったお金を貯金している。」ともおっしゃいました。

3. 昭和40年、弟（紘二）が香川大学・経済学部を卒業するときでした。

父 留太郎からの呼び出しで長崎に帰った時、「紘二は卒業した後、専攻科に進みたい、と希望している。しかし、これ以上学資を出し続けるには経済的に限界がある。そこで、紀男が授業料を出してくれるなら、紘二の希望を叶えて進学させてよい。」と相談を持ちかけられました。

入社2年後の薄給でしたが、2年間、援助しました。 **紀男記、**

4. 平成11年、母が道後の私宅に遊びにきました。

松山市内や「しまなみ海道」を案内し、1週間くらいの滞在の後、長崎へ帰る道すがら、「今度の松山ではあちこち連れて行ってくれ、美味しいものを沢山ご馳走になった。お金は全部あなたが払ってくれて、私は何も出さなかった。ありがとう。」

「恭子家族と小旅行したり、外食したりしたときは、食事代はいつも私が払っている。恭子は一度も払ったことがない。」と愚痴をこぼしました。 **紀男記、**

5. 平成16年、息子家族3人で長崎に旅行しました。

曾孫（華世ちゃん、3歳）を祖母に見せたくて、泉町に寄りました。

そのとき、キミエ母は、株の話をよくなさったそうです。

敬子さんは、このお年で（87歳）株の取引をなさっていることにびっくりした、と私に伝えました。「株の投資は父の代から続いていたのだろう。」と夫は言っています。

キミエ母は、投資がお好きだったのでしょうか？ 美年子は以前に、「郵貯の利息が良かったので、だいぶ儲けた。」と聞いたことがあります。

6. 平成5年、次男（円）が大学院へ進学するとき、

入学金を横山の父から借りました。

我が家は、住宅ローン、円の学費（他県に下宿）、昌子の学費、長男（英男）の施設費（毎月8万5000円）などで、家計は底を着いていました。

借用書を書かされましたが、父は、一度も返せと言わないで、借用書は墓に持って行きました。

横山の父は、円、昌子宛に、1歳から20歳になるまで毎年、お年玉と誕生祝を直筆の手紙と現金を書留便で送ってくれていました。孫の誕生日をよく覚えていてくれました。

「内孫と外孫の区別はいさかいの元になる」と言う横山の母の配慮でした。

西山の父母からは、一度も届けられたことはありませんでした。

7. 私どもが長崎に帰った折には、いつも恭子さんが食事の会を準備してくださいました。

夫の古稀、喜寿、などもお祝いをしてくださいました。

濱崎さんご夫婦（長女 朱美さん）ともお会いでき、嬉しいことでした。

費用はキミエ 母の口座からいただいたものと感謝しています。

以上、美年子の手記のようになってしまいました。
私の体験と所感を伝えたいとの思いからです。

公平性を欠かないよう、

辻俊雄・恭子様、 キミエ後見人 安部高樹様、 弁護士 岩永隆之様

西山円・敬子様

宛に送らせていただきます。

2019年12月1日

西山美年子

西山 紀男